



田

城

之

鬼

とても唐突な
ことではあるの
ですが

トーマは稲妻でも
僅かとなった鬼の
血族にあたります

十年程前、
トーマが稲妻へ
来たばかりの頃

彼には角など
生えていません
でした

厳密には元となる
突起はありましたが
言われなければ
分からない程度の
ものでした

若

なのであの日――

彼が私に仕えると
言ったあの夜に

彼の口から

オレは鬼の血を
引く者です

と打ち明け
られた時



私は大層
驚きました

それは私の父が
亡くなる数か月前
のこと

私は御里を継ぐため
父から終末番の全てを
継ぎました

その中でも私は
終末番の一人の男に
ついて印象深く
残っていました

その者は父に
「己には鬼の血が
流れている」と
言ったそうです

そして彼は任務で
モンドへと赴き

数か月前に稀世に
帰国し、やがて
殉職したのだと



そしてそれを
思い出した
私はらしくもなく
こう思いました

その者の事情は
あまりにも……



彼がこの神里の
家へと来るのは
必然だったの
だろうと……

私が当主となることを
定められていたのと
同じように彼もまた
縁に導かれたのだと

あまりにも
トーマが稲妻へ
来た事情と一致
していました

閑話休題



つまるところ
私が言いたいの
は

トーマは少しだけ
鬼だということ
です

近頃トーマが自分の
ことをあなた方に
話そうか迷っている
ようなので

それとなく尋ねて
あげてはくれ
ないでしょうか

これはある種
私の自己です

あなたは世界を
旅する旅人

私はただ
そんなあなたに
私の大切な人を
見届けてもらい
ただけなの
かもしれません

ん…

彼が鬼の血を引いて
いることは
私の知る限り私と
綾華しか知らない
ことです

鬼と言えど
殆どヒト…

わか…

彼は鬼としてではなく
ヒトとして歩むことを
選びました

勝手に伝えておいて
なんです
ぜひこの事を他言
しないでくださると
幸いです

ふふ

親愛なる
旅人さん

ほらトーマ
私ももう休むから
起きて

あなたの旅路が
順風であることを
願っています

もう
この人は…



ふむ…
味は普通に
美味しそうですね

あー、
どうしよう？

若ー!!



おや、もう
旅人さんの
見送りは
済んだのかい？

ええ、無事に
璃月行きの船に
乗りました

こつわ、また
変な飲んごも…

さあ何の
ことだか…

というか
それよりもです！

ええ
勿論です！

あ、智樹さん
トーマにももう
一杯作っていた
だけませんか？

惚けないで
ください！

あなた
旅人にオレの事
話しましたね!?



若あつ





よく言うよ

今までずっととそう
してきて今日も
そのままにしよう
してたくせに

……

星



まあでも
確かに

君に
黙って

勝手に
伝えたのは
悪かったよ



君が毎日ずっと
悩んでるのが

少し面白く
なかったんだ

それって……



ね、若
これから少し
お時間あり
ますか？

じゃあ
よかったら

オレとデート
しませんか？

え？
あるけど……



……いえ、オレも
若の言葉添えが
無ければいつまでも
言えなかったと
思います

……

オレはどうやら
あなたに寂しい
思いをさせて
しまったようなので

挽回の
チャンスを
ください

……

君ね…

場所を
弁えなさい

あはは
すみません

もっ…

甘えるのが
上手なよう
でいて

実は甘え下手な
かわいいオレの
主君

外で手を繋ぐ
のは感心しないな

じゃあ通りを
抜けるまでは
いいですか？

そこまでなら…

オシの血も
生まれも知って
なお愛わらず
押してくださる
優しいお方

叶うのなら
どうして

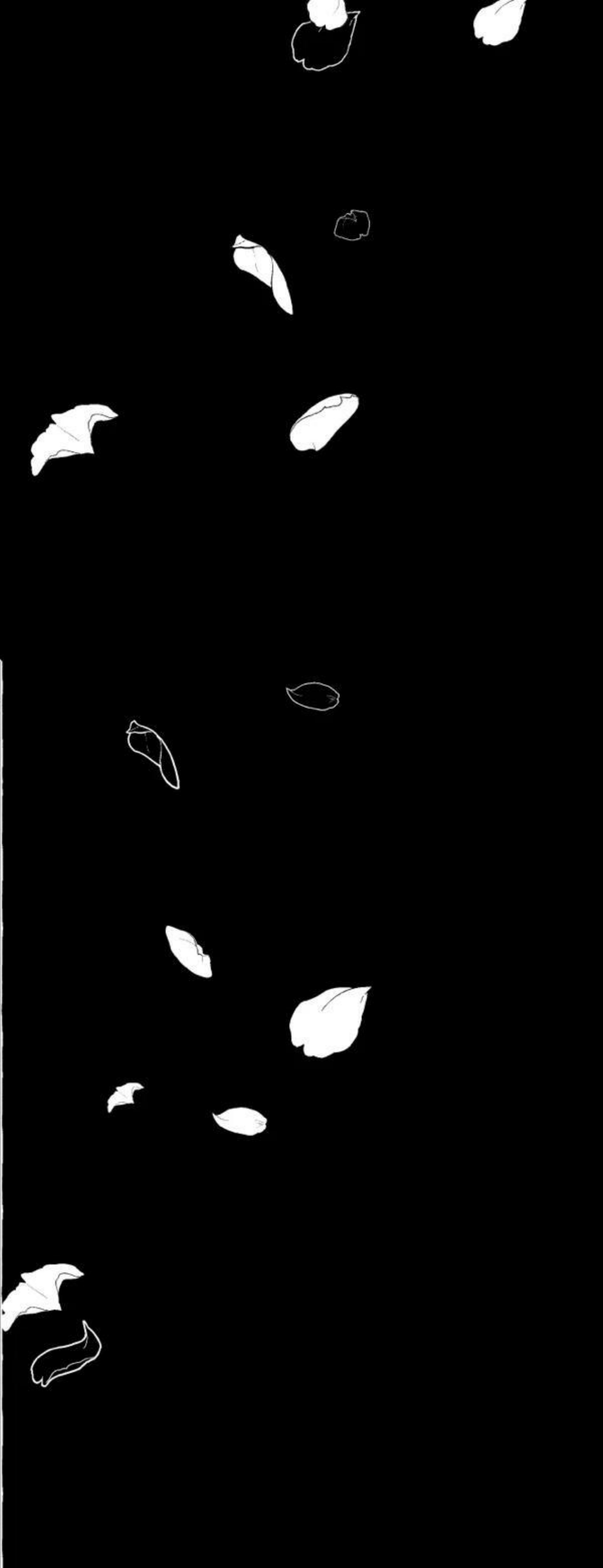
君とこうして
歩くのも随分
久しぶりだね

ああ昔が
懐かしいな

君は道を買える
までよく遊子に
なっで…

変わることも
いつまでも

どうか
あなたの傍に





トーマが倒れた？

祭りの準備に必要な資材を運んでいる最中に魔物に襲われ脇腹に怪我を…

はい

幸いにも命に別条はなく、現在トーマさんの希望で離れて休んでおります



分かりました下がります

はっ

何じゃ

あの赤いモンドの小僧がやられるなぞ珍しいこともあるものじゃな

汝きちんと暇は与えておるのか？

お気遣い
痛み入ります

しかしあれは自分で
管理の出来る男です
のでご心配には及び
ません

ほお
そうか

とはいえ
倒れたことは少々
気掛かりですので
今回はこれで失礼
させていただきます

良い良い
早う行け

妾もそんな顔で
いられると迷惑じゃ



そうじゃ

お前さんに
ひとつ教えて
やろう

何でしょう？



近頃そやつの
周りの陰気が
強まっておった

それに加え此度は
負傷したときた

放っておくと
問題が生じる

発散させるか
封じた方が
よいぞ



でないと喰われて
しまふやもしれん
からの？

どうして
来たんですか！

来ないでと
言ったでしょう!?

今のオレ


おかしいんです

ずっと腹が
減ってて…

なのに何を
食べてもダメで







いいかい
トーマ



君に命令を
下すのは

主人である
この私



君は
須^{すべ}らく

私の命に
従いなさい

わかったね？





あん……ッ

カッ

あん

あん……ッ

あん……ッ



我慢なさい

このまま
中に……ッ

トーマ

ヤバい……ッ

中の
締め付け





んん...



あ...

ト...



若教えて
ください
どうして
こんな...

お
お



私ね
今日決めた
ことがあるんだ

んん...
何ですか



君と
正しく

契りを
結ぼうって



契り…?

それは
どういう…

そのままの
意味だよ

ん…

小刀…？

いいかい

私は今から
君を正しく
私のものにする

若
一体何を…

動かないで

そしてこれは
その為の代償…

一時的じゃない
強い繋がりを
結ぶことになる

お止め
ください
若ッ！

そんなことをして
オレが止まらな
かったら
どうするんですか

オレが貴方を
喰わない保証
なんて

いいや

君は食べない

だって私の
見込んだ男ひと
だもの

己の主を
食べたりなんて
しないさ

だから

ちゃんと
飲んでね
トーマ



駄目だ



頂くべき
したい

頂くべき

飲みたい

こんなの
人道に反する

食べたい

断らなければ



ならばオレは
口に入れて
舌で舐って

肉を舐って
舌をしゃぶって

だから
オレのために
手を切って

でも若はそれを
噛んでる…?



はま…

それから…

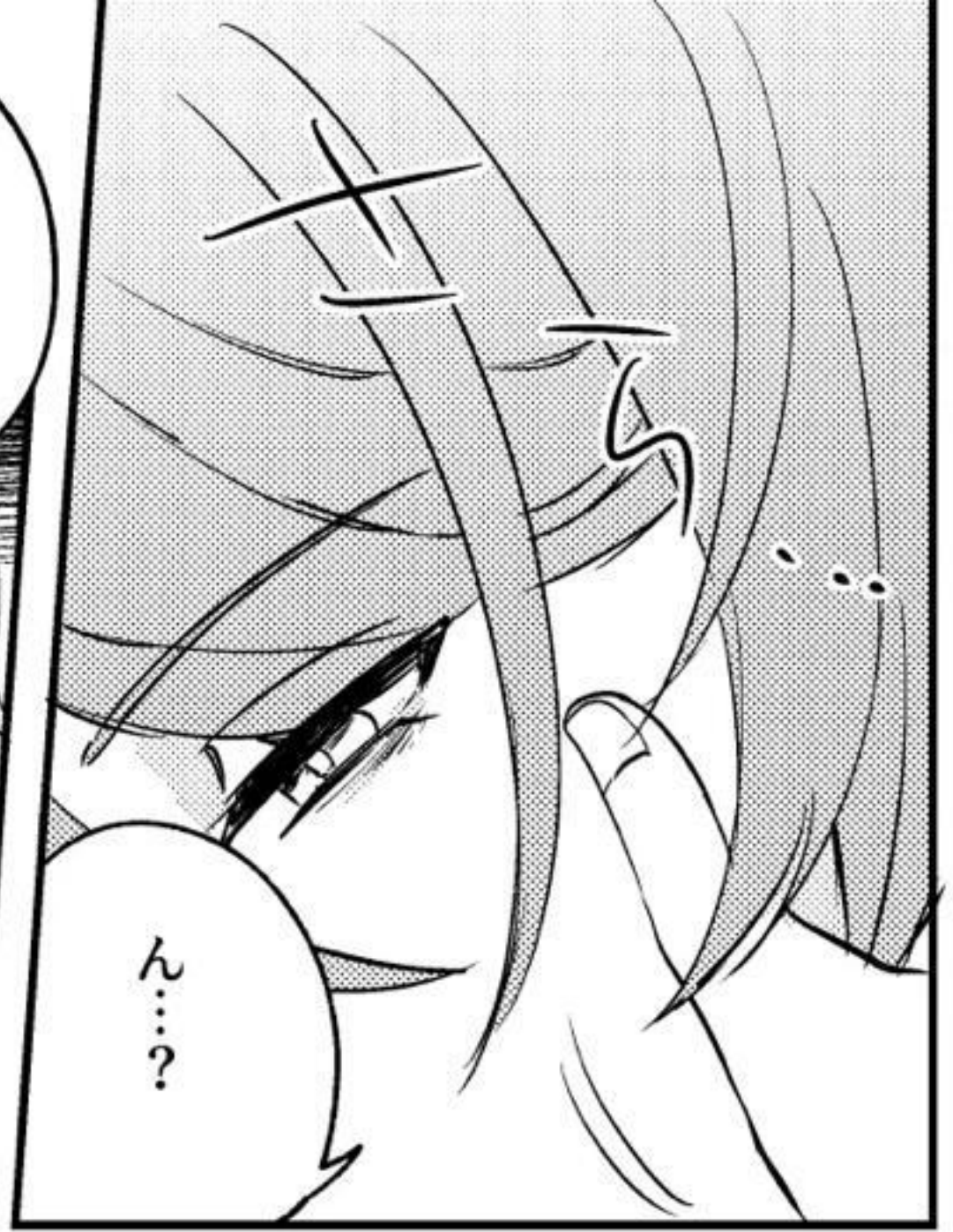
いいよ

トースト...

、酷く
愛したい







ああ：
ごめん
少しトんでた
みたいだ



まだ歳は
感じたく
ないんだ
けどなあ



…なんだい
トーマ？

泣いてるのかい？



そりゃ泣きも
しますよ！

オレはあなたを
大切にしたいのに



なのにオレは…っ

あなたにこんな
無理をさせて…っ

ふむ…



確かにいっぱい
噛まれたね？

「確かにいっぱい
噛まれたね？」

じゃないんです！！
オレが喰ってたら
どうするんですか！！



でも君は食べな
かったじゃないか

当たり前
でしょう!?

食べるわけ
ないじゃない
ですか!!

必死で
我慢しましたよ!!

わっ

あはは
君ってば言ってる
ことメチャクチャだ



若…

胸のそれ
何ですか？

ああこれ？



…？



これは君との
契りの証

君の胸にも
ついてると
思うよ

本当だ

いつのまに…



これで私たちは
結ばれたんだ

きちんと
出来たようで
安心したよ


これは一体
どういうもの
なんですか？

あなたに直接害の
及ぶものでは
ありませんか？

んー…

そうだね…





やはり知って
おいでだったの
ですね



当然じゃ

伊達に数百年
生きとらん

まあ

それに気付けたのは
妾だけじゃろう

何せあやつは
混ざりものが
多い

故に鬼だと
分かったのも
かなり日が経った
頃じゃったよ



しかしその
「喰われる」と
いうのは？

さつきも言ったが
あやつは半端者

何、そのままの
意味じゃ

自身に集まる陰気に
気付かず妖側に
来ようとしておる

もしそうなった場合
十中八九奴は
本能的に人を
喰うじゃろう

人の血肉と
靈魂を喰って力を
付けるんじゃ

そうでもせんと
色々保てんからの

鬼としての本能に
理性を喰われ、
人を喰らう

それが
「喰われる」じゃ

何か手立てなどは
ないのでですか？

あるにはある

じゃが…



生平可なもの
ではないぞ？

何せ汝が命を
賭すことになる
やもせんからな



ふむ…



なるほど
しかし…

必ずしも
そうなるという
わけでも
ないのですね？

はあ

この際に
手放してしまえば
良いものを…

よい

ならば
教えてやる



嫌だった？

め、滅相も
ありません！

嫌なわけ
ないです！

それは
良かった

ですがこれは
妖の摂理の契り
なのでしょう？

でしたら人の
ように何も無し
にはいかない
はず

…さすがに
わかるか

実は君と
私の心臓を
繋げたんだ

心臓を…
繋げた…？

この印がね

君と私の心臓を
繋ぐ印となって
いるんだ

もしどちらかが
命を落とした場合

もう片方も
道連れに命を
落とす仕組みに
なってる

…!!

ま、試しようも
ないから本当かは
分からないけどぬ

もし君が死に
着っても私の血肉
以外受け付けない
とかそんな感じ

便利だろうか？

あとは
これがあることで
周りに君の所有が
私にあることを
示せるとか

便利……ですか……

……

……君
あなたはそれで
よろしかったの
ですか

え？

オレなんかの
ために……まで
して

あなたは本当に
よろしかったの
ですか？

……

君が…
惜しかった
んだよ…

だから…
君が…

すみません
駿人さん

だから…
だから…

すみません…

…ツ





今度は
優しくして？

いいから

ねえ
もう一回…

…！
しかし…



おねがいだよ

ほほほっ

もちろんです
うんと優しく
します

あ、でも
焦らすのは
無しね？

…頑張り
ます…



たった
それだけの
ことなのに

綾人さん

怖くないですか？

こんなにも
安心する

もし怖いと
思ったら

すぐ仰って
ください

大丈夫
怖くないよ

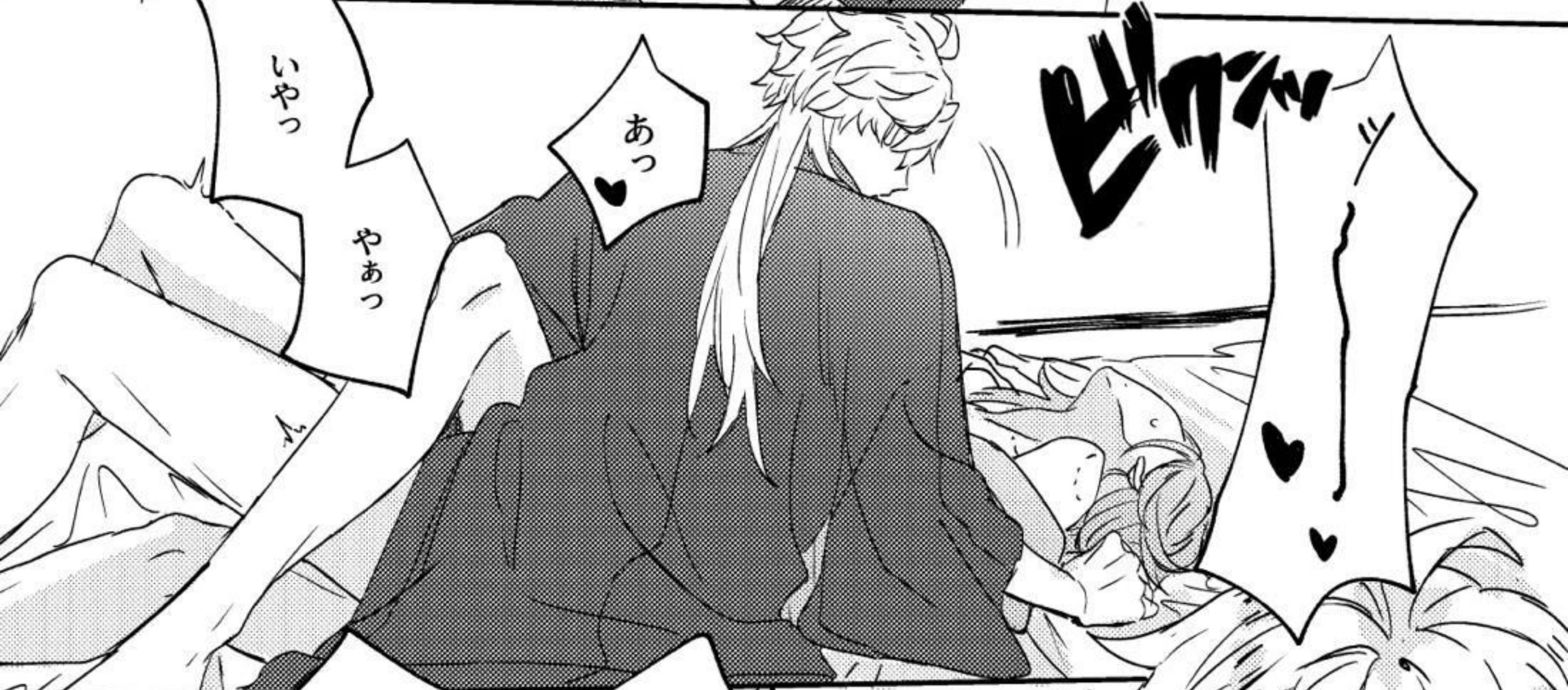
だから
はやく

ちゅちゅちゅちゅ

ふふ

……









気持ちいい
ですか?

綾人さん...

あっ
はぁ
んっ

うんっ
きもち
いい

はぁ

はぁ
あん

奥まで
ちようだい...?
だから
もっと...

っ...!

はぁ





わ、若…っ
ツノは…!!

ね?

んッ…!!

ツノはやめて
ください…!!

ふふ♡
おつきく
なったね♡

もおお〜

どうせこの身体じゃ
外には出れないし
このまま朝まで
しようか♡

その前に寝て
しまわれるで
しょう?
無理させる
つもりは
ありませんよ

えー
もう今更
なのに

若!



トーマー！



お嬢！
おかえり
早かったね

大した用事では
ございませんで
したので

宮司様の
ところに行っ
きたんだらう？

彼女は
なんて？

宮司様は
快く了承して
くださいましたよ

会場に使用する
場所も提供して
いただけるみたい
です

そうか！
なら良かった

じゃあこれから
本格的に
スケジュールを
組んでいかないと
だね！

ええ

今回は珍しく
お兄様からの
祭りの提案ですから
必ず成功させま
しょう！

ところで
トーマ

その
手に持ってる
ものは？

ああこれ？

祭りの
資料だって

若が
暇だから少し
でも出来ること
持ってこいって

まあ
お兄様ったら！

風邪を引いてる
時こそしっかり
休まなくては
治るものも
治りませんのに！

そうだよなあ

あはは
胸が痛い…

あとトーマも！
あまりお兄様を
甘やかしては
いけませんからね！

はい…

では私は
昼食を摂って
参ります

ああ
行っておいで



失礼します



ああ
おかえり
トーマ



若
お持ちし
ましたよ



よくありません
ちやんと着て
ください

ふー



實際君以外
いないんだから
いいじゃないか



もー
誰もいない
からってまた
だらしな
い格好して！



そういやさつき
お嬢に会いましたよ

ほう？

それで？

宮司様は
快く承諾してくだ
さったみたいですよ
会場も提供して
いただけるらしい
のでオレたちも
順次用意を
整えようかと
思ってます

そう

それで…
今回はどういった
祭りをなさる
おつもりなんですか？

何、少し古風な
祭りだよ

かつての稲妻の
ある地方に
あった祭りだね

秋の収穫を祝う
祭りであると同時に
雷光祭盛、疫病退散を
祈願する祭りでも
あったとか

なんとも欲張りな
祭りがあったんですね

はえ





それでね

ここがこの祭りの
面白いところ
なんだけど

は、はあ…

なんと
この祭りの
主役は

鬼
だった
そうだよ

…!!

見せられも
オシ古文な
「読ませんよ」…



若…

まさかオレに
主役をやれと…?

まさか
君じゃないよ

ほら稲妻には
立派な鬼が
いるじゃないか



ああ
彼でしたか

せっかく久しぶりに
開国したんです

他国の情勢には
まだ明るくあり
ませんがこの国には
もっと観光する目的と
人が必要でしょう

そうでなければ
ここはいつまでも
貧しいままでしょう?

なのでこの際に
古い祭りを今風に
手を加えて国風した
新しい種差をより
多くの外国の方にとって
もらうべきだと思つて
るんです

宮形祭
みたいなの？

そう！

そうすれば
この国は潤って

民たちの生活も
今よりも豊かに
なるはずですよ

稲妻の文化を
取り戻しつつ

他国の方たちとの
交流をつくる……

本当は？

ふん……

一斗くんを主役に
した祭りなんて
なんか楽しそう
だなって

そんなこつたらうと
思いましたよ



閑話休題



それって
つまり

宮司様は
オレたちのこと
知ってたって
ことですか!?

よろしよ

そりゃあ
そうだろう

そうじゃなかったら
昨日の契約の話も
しないでしようし

た、確かにそれも
そうですね…

若!
って

あの人のことで
考えを巡らせる
のは無為なこと
だよトーマ

そんな
ことより

ほら

脱…



ム

う

はやく
塗って？

...

...仰せのままに



あとがき

『異域之鬼』を
お手に取ってくださり
またここまで読んで
くださって



本当に
ありがとうございます!!
ございます!!

トーマ鬼化のお話は
実は綾人が実装される
以前から自分が読んで
みたい、描いてみたい!と
思っていたものだったので
実際にこうして本の形に
出来たことが
とても嬉しいです!



原稿が思うように進まず、
10/30のイベントに
間に合わない形となって
しまいました。本を
完成させて出せることに
意義を感じているので
思う存分自分を褒めようと
思います!

今回この本を描くに
あたって一番気を付けた
ことは『ゲームの
ストーリーを意識しつつ、
尚且つ稲妻の国の雰囲気
壊さないような独自設定を
練り込む』という点でした。

そしてそれを
サンプルを公開した
時点で何人かの方が
感じ取ってくださって
とても嬉しくなりました!

あ、若、
どう?
似合ってるか?

おまたせ

あ、若、

はいっもちろんです!
よくお似合いです!

webイベもリアイベも
何一つ間に合ってません
でしたが、皆さんの暖かい
お言葉が励ましに
なりました!
本当にありがとうございます!!
ございます!!



そして
実は一つ心残りがあるんですが…

用意が出来ました
どうどう…

あ、トーマ
まって

表紙でスイパラ衣装
着ているにも関わらず
本編で一切スイパラ衣装
着せられなかったことです

なのでこの後書きで
着てもらいました!!

かわいい!! 天使!!
ミホヨありがとう!!
衣装実装いつまでも
待っています!

ちゅ♡

と、まだまだ
書きたいことは
たくさんありますが
長くなってしまっているので
この辺で終わりに
しようと思います

レスへ、
よみだのきりすたよ

きりすたどういたん
ごすかた

改めてここまで
読んでくださって
本当にありがとう
ございました!

ほろ早く
行こう
夜は短いだから

皆さんお体には
お気を付けて
お過ごしください!

夜にこり鎮守の森デートに行くト2人

Twitter:@shigxxx

PixivID:30475917

この本は非公式ファンブックです。
原作者様や出版社様、また実在する
全ての個人・企業・団体・事実・史実とは
一切関係ありません。

無断転載、自作発言、オークション等への出品、
転売、偽説は固くお断りいたします。
また二次創作を知らない一般の方々
の目に触れないよう配慮をお願いいたします。

発行日：2022/11/12

発行元:関ノ山

発行者:日/shig

印刷:BROS



Genshin Impact
Doujin comic #3
Sekinoyama